

技術・家庭科部会 研究の構想（案）

平成30年度～

I 研究主題

生活を工夫し創造する資質・能力を育てる指導過程はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

平成27年度より、「生活を工夫・創造し、社会を生き抜く力を育てる指導過程はどうあればよいか」の主題の下、授業で身に付いた資質や能力を生かし、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の育成に向けて、自ら問題を見だし課題を設定し解決を図る問題解決的な学習をより一層充実させる研究を推進してきた。

その結果、思考の流れを整理できるワークシート等の工夫による言語活動の活性化や、実感を伴った理解を促すための外部人材・機関等を活用した指導計画によって生活を工夫し創造する力を高めることができた。

一方で、生徒の実態や発達の段階に応じた指導計画・指導方法を工夫し、さらに言語活動の充実を図る必要があるなどの課題が残った。

平成29年度に示された新学習指導要領では、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することや、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができる資質・能力の育成を目指して、目標及び内容について改善が図られた。技術分野では、「技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成」、家庭分野では「よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成」を重視している。それらの育成を目指して、「技術・家庭科の見方・考え方」を働かせた学習活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現していきたい。

そこで本部会では、研究主題を「生活を工夫し創造する資質・能力を育てる指導過程はどうあればよいか」とし、新学習指導要領の趣旨に沿った指導過程について工夫しながら主題に迫っていきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

これまでの研究の成果を踏まえつつ、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することのできる力を育むための指導過程の工夫が必要である。そこで、生活や技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、問題解決的な学習をより一層重視して指導過程を工夫し、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育むことをねらいとした。

2 研究内容

- (1) ねらいを明確にした指導計画・指導方法の工夫
- (2) 問題解決的な学習の工夫
- (3) 主体的・対話的で深い学びにするための手立て
- (4) 評価の工夫

技術・家庭科がねらう「生活を工夫し創造する資質・能力」とは

- ・生活と技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能
- ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度

技術・家庭科部会 平成30年度研究計画（案）

I 研究主題

生活を工夫し創造する資質・能力を育てる指導過程はどうあればよいか。
－新学習指導要領の趣旨に沿った指導計画の工夫－

II 主題について

平成33年度より全面実施となる新学習指導要領における技術・家庭科の目標は、「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する」である。

現行の学習指導要領の下、取り組んできた技術・家庭科の学習においては、普段の生活や社会に出て役立ち将来生きていく上で重要であるととらえる生徒が多く、学習に対する有用感が高いという成果が得られた。一方で、家庭や地域の教育力の低下により、家庭での実践や社会に参画することに十分ではないという課題も見られた。家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応する力の更なる育成が求められている。技術分野においては、技術についての基礎的な理解とそれに係る技能を身に付けること、技術に関する問題を見だしその課題を解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて技術を工夫し創造しようとする態度の育成を目指している。家庭分野では、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解とそれらに係る技能の習得、生活の中から問題を見だして課題を設定し、それらを解決する力やよりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等の育成を目指している。

これらを踏まえて、研究主題を「生活を工夫し創造する資質・能力を育てる指導過程はどうあればよいか」とし、研究を進めることとした。

III 研究内容とその視点

1 ねらいを明確にした指導計画・指導方法の工夫

- (1) 指導計画の工夫
 - ・各題材における身に付けさせたい力の明確化
 - ・学習内容の順序性や他教科との関連性を考慮した指導計画の作成
 - ・3学年間の見通しをもたせるガイダンスの改善・充実
 - ・家庭や地域との連携・協働を図った題材の開発
- (2) 教材・教具の工夫
 - ・生徒の実態に即した教材・教具の開発と工夫
 - ・工夫し創造する喜びや成就感を味わわせる教材・教具の開発と工夫
 - ・生徒自身が身に付けたい力を自覚でき、家庭や社会で活用できる教材・教具の開発と工夫
- (3) 指導方法の工夫
 - ・興味・関心を高め、意欲を持続させるための題材の工夫
 - ・実感を伴った理解を深める実践的・体験的な学習活動の充実
 - ・地域の人的・物的環境を生かした題材と活用方法の工夫
 - ・個々の生徒の困難さに応じた手立ての充実

2 問題解決的な学習の工夫

- (1) 生活や社会の中で生じる問題を見だし、生徒が必要感をもって取り組める課題や題材の工夫
- (2) 計画、実践、評価、改善等の一連の指導過程の適切な組立て
- (3) 課題解決の場面において、最適な解を見だし、新たな気付きにつながる指導方法の工夫
- (4) 実習等の結果を記録・整理し、考察する学習活動の設定

3 主体的・対話的で深い学びにするための手立て

- (1) 見通しがもてる学習活動や学習したことを振り返る場の設定
- (2) 他者との対話や協働の中で、言葉や図表、概念等を使用して説明したり、討論したりするなどの言語活動の充実
- (3) 習得・活用・探究の学びの過程で、「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせながら課題の解決を図る手立ての工夫
 - ・ICT機器の有効活用
 - ・学習形態、発問、板書、ワークシート等の工夫
- (4) 思考力・判断力・表現力等を高める手立ての工夫
 - ・ICT機器の有効活用
 - ・学習形態、発問、板書、ワークシート等の工夫

4 評価の工夫

- (1) 教師の指導に関する評価
 - ・身に付けさせたい力を明確にした目標や内容の構造化
 - ・指導と評価の一体化と充実
- (2) 生徒自身による評価
 - ・自分の学びを確認するための自己評価
 - ・互いのよさを認め合い、学び合うための相互評価

IV 研究方法

- 1 各郡市部会の会員数に合わせた研究体制を整備し、部長及び研究推進委員を中心とした共同研究を推進する。（各学校での実践を記録し、情報交換を積極的に行う）
- 2 各郡市部会で指導計画、評価計画、指導案、ワークシート・資料、評価問題等を共有し見直しと改善を行う。
- 3 組織的に研修が進められるようにするため、指導計画、評価計画、指導案の形式を統一していく。
- 4 小学校、高等学校、高等専門学校、大学等、諸機関との連携のもとに、講演会、実技講習会、施設見学、教材開発の情報交換等を密に行い、常に新たな情報を入手できるように研修を深める。
- 5 技術・家庭科教員がいない学校の授業担当者への情報提供にも努める。

